

平成25年度事業にかかる評価結果について

		情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット(事業量)	目標・事業計画	情報発信 100件	① イノベーション人材のコミュニティ形成 88回 学生、VC、起業家、支援機関、企業対象としたイノベーション人材のコミュニティ形成のためのセミナー等 ② 海外ワークショップ(学生、起業家) 2回 プログラム参加者 2,400人以上 イベント参加者数 3,800人以上	① ニーズ顕在化プログラム 20回 ② ハッカソン(ものアプリ、ソフト系) 6回 ③ オープンイノベーションマッチング 投資家・起業家マッチング 6回 ④ 事業開発研究会 12回 プログラム参加者 1,400人以上	● 国際イノベーション会議開催 参加者: 200人以上 ● プロジェクトのプロモーション機会創出 国際会議 1回
	実績 4~3月	● イベント告知 日本語 153本、英語 141本 ● イベントレポート 日本語 15本、英語 14本 ● 起業家紹介等 日本語 11本、英語 9本 ● FB投稿 日本語 318本、英語 58本 ● メルマガ 17本	① イノベーション人材のコミュニティ形成 141回 ② 26年2月24日~3月1日開催 35人 (「学生/若手社会人コース」30人「起業家コース」5人) イベント参加者数 8,286人 イベント参加者を含む 拠点来場者数 11,615人	① 21回(デザイン、気象、介護機器、LLP等) ② 8回(ものアプリ、シャープ、OnePanasonic等) ③ 6回(サンスター、オンキヨー、吉本、レキッドベンキーズ、介護福祉・環境分野等展示商談会等) ④ 12回(社会インフラモニタリング技術、オープンデータ等)	日時:平成26年2月19日(水曜日)午後1時~午後6時 場所:グランフロント大阪ナレッジキャピタル ナレッジシアター (1) 基調講演 エリック・ミジコフスキー氏(Pebble Technology CEO) マット・ウェブ氏(BERG Cloud CEO) (2) トークセッション パネリスト:エリック・ミジコフスキー氏、マット・ウェブ氏、稲田 雅彦氏(株式会社カブク CEO)、モデレータ:湯川 鶴章氏(IT評論家) (3) インターナショナルピッチコンテスト 10名程度(うち国外から3名程度)
アウトカム(成果)	目標・達成水準	国内外のメディアに取り上げられる 定量的指標 ① HPのユーザー数 30,000 ② FBの「いいね」数 2,000 ③ メルマガ登録者数 3,000 定性的指標 ● メディア掲載数及びメディアによる評価	起業・イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している 定量的指標 ① メンバーシップ(OsakaHackersClub)登録者数 200 ② OsakaHackersClubのオーガナイザーが主催するコミュニティのメンバー数 3,000 定性的指標 ● コミュニティの形成が促進されている ● 多様なコミュニティが参画している ● グローバルネットワークが形成されている	イノベーション創出に資するプロジェクトが具体化している 定量的指標 ① 事業化プロジェクト創出支援件数 20件 (事業化定義) ① 守秘義務、共同研究等契約関係②ソフトウェア等における試作版の公開、③資金調達に向けた具体的アクション、④スーパープロデューサーが認定をしたもの	国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場として、国際イノベーション会議が評価される 定量的指標 ① 海外関係からの参加者数 100人程度 ② メディアでの掲載数 前回カンファレンスにおける実績と同等程度 定性的指標 ● メディアによる評価内容 ● YouTube、Facebookの情報発信効果
	目標設定の考え方	4~8月実績の2~3倍を目安としている	4~8月実績の2~3倍を目安としている	25年~27年度の3ケ年で、プロジェクト創出支援100件を目標としており、初年度は20件としている	昨年の国際カンファレンス実績に加え、グローバル化を推進
	実績 4~3月	定量的指標 ① 67,527 ② 2,125(国際会議特設サイト含む) ③ 3,977 定性的指標 ● WEBメディア掲載 18回 ● 新聞掲載 22回 ● 雑誌 2回 OIHの取組みを継続的に取材していただく記者が増え、特集記事や理事のインタビュー記事が全国紙に大きく掲載された。	定量的指標 ① 268人(プレイヤー136、オーガナイザー55、パートナー65、アドバイザー12) ② オーガナイザーが主催するコミュニティのメンバー数 6,487 定性的指標 関係先とネットワーク構築 ● 領事館関係(英、米、仏、デンマーク、カナダ)ネットワークによるセミナー ● 香港貿易発展局を通じた販路開拓支援 ● シンガポール元政府職員を通じた、シンガポール、インドネシア進出支援 など	定量的指標 ① 事業化プロジェクト創出支援件数 22件 ・ものアプリハッカソンから生まれた1社は起業し、最近製品を発表、米国メディアに掲載された。クラウドファンディングで目標額達成。 ・また、ものアプリハッカソンから生まれ起業に向け製品開発中のチームがある。 ・シリコンバレーツアー参加者から5社起業。VCから資金調達し雇用を生み出した企業もある。 ・オープンデータの取組みで生まれたアプリが表彰(24年度事業実績 13件)	定量的指標 ① 参加者数 307人(うち外国人69名 22.5%)(昨年 315人) ② 新聞 2件、WEB 7件(うち英語2件) 定性的指標 ・詳細な会議内容のレポート、講演者インタビューが経済紙に掲載された。今後に期待を寄せる記事。 ・Ustream視聴者数 2,106件(昨年 619件) ・Facebook ページ 投稿 76件、いいね 369人 ・YouTubeに録画した映像をwebページに掲載

評価: S 目標・達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある A 目標・達成水準に到達しており、順調に進捗している
 B 目標・達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している C 目標・達成水準の到達のために、重大な改善事項がある

	段階別評価	A	A	A	A
自己評価	自己評価各事項別コメント	<p>・アウトプット、アウトカムともに目標達成した。初年度でもあり試行的な面もあるが、Facebook は精力的に投稿を行い、日々の活動内容を発信する重要なツールに育った。メールマガジンも着実にイベント参加者の登録を進め増加できている。</p> <p>・新聞、WEB メディアに興味を持って取材される機会が増加しており、複数回、また全国紙に大きく掲載されたことで知名度が飛躍的に向上した。</p> <p>・来年度は、国内向けにはイベント告知に加え参加者相互の交流を促進するコンテンツの充実を図りつつ、海外からのアクセスと認知度向上に向け、新たなツールによる情報発信の拡充に努める。</p>	<p>・アウトプット、アウトカムともに目標達成した。特に、イベント実施に精力的に取り組み、実施回数は目標数を超え、イベント参加者は目標を大きく上回り2倍近い人数に達した。</p> <p>・海外ワークショップは昨年と同様の参加人数で実施した。</p> <p>・コミュニティ形成促進のため、メンバーシップ(Osaka Hackers Club)を今年度7月に立ち上げ、200人を超える登録者を獲得でき、約6000人のコミュニティメンバーとともに、多数のイベント開催を実現した。大阪で相応規模のコミュニティ・ハブを形成できた。</p> <p>・英・米・加・仏・デンマークの領事館関係、香港貿易発展局等、政府関係、またシンガポールの創業支援団体などグローバル・コネクションを構築しつつある。</p> <p>・来年度は、今年度に培ったネットワークをもとに、よりグローバル展開に向けたイベントの実施に注力するとともに、プロジェクト創出に重点を置いた活動をすすめる。</p>	<p>・アウトプット、アウトカムともに目標達成した。昨年度に引き続き、「ものアプリハッカソン」は多数の参加者を得るとともに、メディアにも注目された。</p> <p>・その成果がさらにシャープの CoCreation Jam、パナソニック社員有志のイベントにつながり、大企業が新たな取り組みに挑戦する機会を創出できた。</p> <p>・オープンイノベーションマッチングはサンスター、オンキヨーと実施し、これまで築いた中小企業のネットワークをもとに多数の企業に参加いただき、数多くの提案を集めた。</p> <p>・事業開発研究会はオープンデータをはじめ、新しい技術と社会的ニーズの融合が期待されるテーマで研究会を組成した。</p> <p>・事業化プロジェクト創出支援は、ものアプリハッカソンから生まれたチームが起業し、グローバル展開に本格的に挑戦を開始したこと、またシリコンバレーツアーに参加した学生が起業しVCから資金調達を得るなど、具体的に成長が期待される案件が生まれた。</p> <p>・来年度は、2年目として、今年度の実績をもとに、さらなるプロジェクト創出に向けて取り組みをすすめるとともに、スタートアップの成長を支援する取り組みの重点化を図る。</p>	<p>・アウトプット、アウトカムともに目標達成した。昨年度の国際会議の開催実績をもとに、大阪のものづくりの特色を出すことができるテーマとして「Internet of Things」を選定、英国・米国の先進企業を基調講演者として招き、実施した。</p> <p>・新聞・メディア等にも複数回、また基調講演者の独占インタビュー記事が大きく掲載され、大きく取り上げられた。</p> <p>・会議開催前に広報をすすめるため、Facebook 専用ページを立ち上げるとともに、精力的に協賛企業を募り、昨年を大きく上回る支援を獲得した。</p> <p>・Ustream のリアルタイム視聴者数は昨年の3倍を獲得した。</p> <p>・日本人のみならず海外スタートアップも交えたピッチコンテストは全編英語で実施した。</p> <p>・来年度は、今年度構築したスタイルを踏襲しつつ、着実に実施することで、さらなる世界的認知の獲得をめざす。</p>

	段階別評価	A	A	A	A
評議会評価	事業総括コメント	<p>初年度として順調に成果を達成している。特に、情報発信、プロジェクトショーケースを通じての認知度向上、又コミュニティ形成活動については予想を超える成果を達成している。大阪イノベーションハブのプログラムに携わっている皆さんの素晴らしい努力の現れだと認識している。来年度はプロジェクト創出の一層の加速、特にオープンイノベーション、イノベーションエクステンション、Osaka Hackers Club の更なる進展等による加速的なプロジェクト創出支援に期待したい。</p> <p>イベント開催回数という量的な点だけでなく、イベント参加者の意識やアウトプットの出来栄えといった質的な点でも非常にレベルが高く、大変充実した活動ができている。国際会議は、そうした1年間の取組みを踏まえ大変充実した内容で開催できていた。2年目以降の活動では大阪が注力すべき部分と外部の協力者に任せる部分に仕分けして、リソースの集中を図っていくような運営に切り替えていくべきだと思う。情報発信の面でも想定以上の成果が出ていて総論としては素晴らしい成果だと認識している。その一方で、この活動状況からすれば、フェイスブックの「いいね」等はずっと伸びていてもよいと思う。次年度以降は特に英語での取組みを充実させ、よりアクティブな情報発信や英語でのコミュニティ形成を期待したい。</p> <p>非常に大きな成果に向けて動き出しているというとても良い印象をもっている。情報発信については、新聞をはじめ様々なメディアで好意的に取り上げられており、大きな成果が得られていると認識している。今後はメディアにも高評価されているということを読まれた方以外にも広く周知していくなど、工夫を凝らした広報戦略の展開に期待したい。</p> <p>一部、シャープなどはあったものの、この取組みへの日本企業の参画が思ったよりも伸びなかったという点は課題であり、プロジェクト創出の過程を「見える化」など、日本企業の参画を促すような取組みに期待したい。</p> <p>情報発信の観点では、HackOsaka や OsakaInnovationHub など複数のブランドがあり、発信力強化のためには整理する必要がある。また、ものアプリハッカソンは大阪発の特徴的なイベントであり、今後も引き続きブランドとして育ていくことを期待したい。</p> <p>成果が出ているイベント等については、短期的な成果にとらわれず、地道に取組みを継続していくという姿勢も必要である。</p> <p>国際会議に、海外から100人参加したことは評価できる。ものアプリハッカソンとシリコンバレーツアーから合計6社の起業が生まれたことは、大きな成果である。</p> <p>海外との連携は、領事館経由だけではなく、民間のインキュベーションや、コミュニティサイトの Meetup に登録されているようなコミュニティと直接交流や連携ができることを期待したい。</p> <p>総務省のICT会議でも取り上げられるなど大阪イノベーションハブの取組みは東京でも認知が広がっており、評価している。</p> <p>さらなる情報発信のため、例えば DARPA チャレンジのように市がテーマを設定し、大手企業も運営側で参画するようなコンテストなど、新たな取組みを期待したい。</p>			